





平成18年10月29日(12年前)全国豊かな海づくり大会

平成8年5月23日(22年前)「鉄の女」来県し交流



平成24年11月23日(6年前)パラエティアートフェスタさが



平成元年11月18日(29年前)初の熱気球世界選手権開幕



平成21年5月27日(9年前) さよならアーケード呉服元町商店街

## 両陛下 ムツゴロウ放流／バルーン世界選手権／郊外に大型施設

2年7月、県内は記録的な集中豪雨に襲われた。佐賀市では1日の降水量が285・5ミリを記録。県内の平野部の約半分が浸水し、JRが運休するなど交通もマヒした。翌年は台風が連続して襲来。17号は佐賀地方気象台始まって以来の最大瞬間風速54・3メートルを記録。県内の家屋124戸が全半壊し、漁船の流出・転覆やビニールハウスが吹き飛ばすなど甚大な被害が出た。その2週間後に上陸した19号は22万戸が停電するなど大きな爪あとを残した。

### F1が土手を疾走

佐賀の風物詩がスタートしたり、全国的なイベントが開催された。平成3年、アジアでは初めての熱気球世界選手権が、佐賀市の嘉瀬川河川敷一帯を舞台に開幕した。佐賀市制100周年のメイン事業という位置づけで誘致し、25の国と地域から、約千人のバルーン

ニストと約102機の気球が参加。会場には、この日だけで延べ約1万5千人が訪れた。バルーンとともに当時の思い出として残っているのが、F1が嘉瀬川の土手を疾走したこと。日本人初のF1フルタイムドライバーの中嶋悟選手が「ラストラン」。土ほこりを立てながらの激走に約500人の徹夜組を含む大観衆が熱狂した。世界選手権はその後、2回開催されており、平成28年に開催された世界選手権には10日間の日程で約131万人が来場した。毎年2月中旬から3月末まで開催される佐賀城下ひなまつりは平成13年にスタート。春の風物詩として親しまれている。

平成18年には第26回全国豊かな海づくり大会が、天皇、皇后両陛下を迎えて開催。両陛下はムツゴロウの稚魚を放流し、ノリの元種をまかれた。両陛下の佐賀訪問は平成4年以来。前回

の訪問時には吉野ケ里遺跡の見学や老人保健施設の慰問などを行われた。平成24年には第12回全国障害者芸術・文化祭さが大会「パラエティアート・フェスタさが2012」が開催された。AKB48の選抜メンバーによるパフォーマンスのほか、美術作品の展示、講演会、リアフリー映画祭も行われた。その他、第5回全国食育推進全国大会「さが食育フェスタ2010」は平成22年に九州初開催。また平成8年には英国首相を11年間務めた「鉄の女」と評されたマーガレット・サッチャーさんが、佐賀県内を訪れた。佐賀市の致遠館高で高校生と交流したほか、佐賀玉屋で柿右衛門展を鑑賞した。

### さよならアーケード

郊外に大型商業施設が開業したのも平成。平成12年に九州最大級の複合商業施設「イオンショッピングタウン大

和(現イオンモール佐賀大和)が大和町尼寺にオープン。その後も平成15年に「モラーージュ佐賀」、平成18年に「ゆめタウン佐賀」と出店が続いた。一方で中心部では平成10年に再開発ビル「エスプラッツ」が開業。直後に核テナントが撤退するなど苦戦し運営していた第三セクターが自己破産したが、現在は公共施設のほかカルチャースクールのテナントとして入れるなど「文化の拠点」として再生している。平成21年には呉服町アーケードが老朽化のため撤去。名残を惜しむ市民が集まりピアガーデンが開かれた。明るくなった通りには、その後、落ち着いた雰囲気のカフェや雑貨店の出店が続く、若者に人気となっている。平成12年、中心商店街の空き店舗で若者に店づくりを挑戦してもらうチャレンジショップがスタート。佐賀市が企画し、月額使用料5千円、共益費1万円、6カ月契約(最長1年)で若者たちは経験を積み、独立を目指した。

### 佐大と医科大が合併

佐賀大と佐賀医科大が合併したのは平成15年。文化教育、経済、医、理工、農の5学部編成となり、学生数約7千4百人、職員数は約千6百人に。キャンパスはそれまでの「本庄」「鍋島」を継続した。平成25年には合併10周年を記念し、本庄キャンパスに佐賀大美術館が完成。国立大学では東京芸術大学に次ぐ2例目の美術館だ。平成28年には芸術地域デザイン学部を新設。

### 「カセドリ」ユネスコ無形遺産に

平成27年、佐賀市の三重津海軍所跡など8県23施設で構成する「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録された。日本の世界遺産としては19件目で、佐賀県関係では初。市民団体の働きかけが行政を動かした。三重津海軍所跡は洋式船を修理するドライドック(乾船渠)の木組護岸遺構。現在、遺構は保存のため埋め戻されているが、佐賀市では「みえない世界遺産、みえつ」と逆手にとりて動画でPRし話題となった。今年、蓮池町見島地区で350年以上続く伝統行事「見島のカセドリ」が国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産に登録された。秋田県の「男鹿のナマハゲ」など8県10件の伝統行事で構成する「来訪神 仮面・仮装の神々」の一つで、県内では唐津くんに続いて2例目。平成2年に巨勢川調整池に伴う埋蔵文化財調査で発見されたのが東名遺跡。縄文時代早期のものとして、国内最古級の木製品や編みかごが発掘された。平成27年に国史跡に指定されるなど歴史的価値が評価されている。

### 「佐賀県」大ヒット

佐賀県初の宝塚歌劇団男役トップスターに朝夏まなとさんが就任したのが平成26年。トップ就任後は「王家に捧ぐ歌」「エリザベート」など、大作ミュージカルを成功させた。平成28年には佐賀で凱旋公演。翌年の宝塚退団後はコンサートやテレビドラマなどにも活躍の場を広げている。平成30年、県初のプロ棋士となったのは武富礼衣さん。関西で大学生活と二足のわらじを履きながら腕を磨く。

「木枯らし紋次郎」で知られる作家・笹沢左保さんは平成14年に亡くなるまで佐賀を拠点に執筆していた。平成6年には「九州さが大衆文学賞」を創設、選考委員長を務めた。富士町古湯の旧宅は現在、「笹沢左保記念館」として公開されている。「佐賀にわか」の第一人者・筑紫美生子さんは平成25年に92歳で逝去。翌年には筑紫さんの業績を伝える追善公演が開かれた。

映画「男はつらいよ」の42作目「ぼくの伯父さん」の佐賀ロケが行われたのは平成元年。松原神社や富士町で撮影されたシーンが今でも楽しめる。大林宣彦監督の「水の旅人 侍 KIDS」は平成5年公開。古湯映画祭の縁で、嘉瀬川ダム建設に伴い水没する予定の畑瀬地区で撮影された。佐賀市が舞台となった映画「悪人」が公開されたのは平成22年。佐賀駅や市内の紳士服量販店、コンビニなど、ありふれた日常風景が映画の舞台となっており新鮮だった。

芸能関係の話題といえば平成15年はなわさんの歌「佐賀県」が大ヒット。売上約25万枚を記録し、その年の紅白歌合戦に出場した。自虐的な内容は地元で賛否両論あった。タレント島田洋七さんの自伝的小説「佐賀のがばいばあちゃん」の人氣に火がついたのは平成16年。明るくたくましいおばあちゃん姿に日本中が共感した。その後、テレビドラマや映画化された。

### 濱田さん世界選手権V

スポーツ界で平成を代表する出来事といえば、佐賀商高と佐賀北高による甲子園V。平成6年、佐賀商は樟南（鹿児島）を8-4で下し、県勢初の全国制覇を果たした。4-4で迎えた9回2死満塁、同大会初の決勝での満塁本塁打で勝負を決めた。平成19年には佐賀北高が広陵（広島）を下し優勝。4点差を追う8回に逆転満塁本塁打を含む5点で一気に逆転した。2試合の延長戦を制して勝ち上がったミラクルぶりに全国でがばい旋風が吹き荒れた。

国際大会での快挙といえば、平成8年、米国アトランタで開かれた第10回パラリンピック大会の男子フルマラ

## 甲子園で2度の佐賀旋風／三重津初の世界遺産／寅さんロケも



朝夏まなとさん



女流棋士・武富礼衣さん



笹沢左保記念館



平成27年5月4日(3年前)「三重津」世界遺産登録へ



テコンドー・濱田真由さん



平成19年7月29日(11年前)青春・佐賀総体熱戦幕開け



平成19年8月22日(11年前)佐賀北が甲子園制覇



平成6年8月21日(24年前)佐賀商、県勢初甲子園V

ソン全盲の部で、柳川春己さんが2時間54分46秒のタイムで優勝。パラリンピック同種目での金メダルは日本選手で初めてだった。4年後のシドニー五輪でも同部門で6位入賞した。平成27年のテコンドー世界選手権、女子57キ  
ロ級で濱田真由選手が優勝。五輪、世界選手権を通じて、日本勢初の快挙だった。地元佐賀を拠点に東京五輪でのメダルをめざしている。  
平成19年には全国高校総合体育大会「2007青春・佐賀総体」が開催された。  
全国から約2万7千人の選手が出場。29競技32種目を実施した。新体操女子の佐賀女子や剣道男子の龍谷、アーチェリー女子団体の高志館など県勢5団体1個人が頂点に立った。

写真提供：佐賀新聞社